

「交通問題と孤立の深い関係」の解決へ向けた取り組み 神奈川県葉山町とワーカーズ・コレクティブくるまやさん



だれも孤立しないまちづくりをめざして

神奈川県逗子市や葉山町は、山坂が多く、高齢化も進んでいることなどから、移動に不便を感じる人が多い土地柄です。「誰もが自由に外出できる社会づくり」をめざして2002年から活動を続けているNPO法人W.Coくるまやさん代表の小矢洋子さんと、副代表の越川紀久雄さんにお話を伺いました。



小矢さん

越川さん

W.Coくるまやさんは、主に逗子市と葉山町を中心に、メンバー数15名(実働11名)で活動しています。車いす対応の福祉車両と公益財団の補助金を頭金に購入した軽自動車を所有していますが、ほとんどが福祉有償運送車両のマグネットを付けた個人持ち込み車での活動です。出かけたついでに寄り道がしたい、自分の目で見て買い物をしたい等、様々な希望に応じてもらえるくるまやさんは住み慣れたまちで暮らしていく大切な足になっています。また、「くるまやさんお出かけ企画」を年2回開催、利用者のお楽しみの場になっています。

「交通問題と孤立の深い関係」の解決へ向けて

葉山町は「住民、民間、行政が協同して、誰も孤立せず、自分らしく暮らせるまちづくりをすすめます」という基本理念をもったまちづくり計画「葉山町地域福祉推進プラン」(2017年4月～2022年3月)を策定しました。葉山町における地域の福祉課題として「孤立を防ぐ集いの場づくり」「生活問題の発見と相談窓口の連携」「地域住民主体の送迎サービス」「小地域福祉活動の専用拠点の整備」を4つの重点課題として、公私協働による取組が進められています。

計画策定時の「交通バリアフリーワーキンググループ」では、高齢化率30%を超え、駅がなく、山坂が多い葉山町において、身体機能の低下などからミニデイサービスやサロン活動に参加出来ない、買い物、通

院、その他社会参加ができなくなるなど、交通問題と孤立に深い関係があることを共有しました。その参加者が中心になり、住民主体の送迎サービスの普及をめざす「交通バリアフリー協議会」(会長はW.Coくるまやさんの越川さん、事務局は葉山町と葉山町社協)が昨年発足しました。協議の内容は、①小地域単位での住民主体の無償送迎サービス普及 ②福祉有償運送事業所による訪問型サービスDの実施 ③住民主体の送迎サービス実施に関する行政の支援と取り組みです。

まずボランティア養成から始める必要があるということから協議会主催で「送迎ボランティア養成講座」を開催したところ、30名以上の参加がありました。注目度の高さが感じられます。

「地域住民主体の送迎サービス」への期待

葉山町では、「集いの場」として新総合事業の通所型サービスB(住民主体による支援)が計画されており、協議会での協議に基づき、モデル的な取り組みとして訪問型サービスD(移動支援)についても検討中です。移動手段の乏しい葉山町ですが、介護予防や孤立防止を視点とした交通問題の解決に向けて、外出支援を視野に入れた住民主体の送迎サービスの普及に向けた試みは、県内の他の自治体でもあまり例がなく今後の取組みに期待したいところです。

ワーカーズ・コレクティブやNPOが行っていた福祉移動サービスは、長い間、法律上のグレーゾーンとされていましたが、2006年の道路運送法の改定により、法律に位置づけられ、一定の条件を満たすことで認められるようになりました。W.Coくるまやさんも葉山町の取組みによって、さらに広く認知され、信頼度も高まることで、担い手の広がりや今後の活動にも生かされてくると思います。(宮武恵里子)



くるまやさん・お出かけ企画にて

W.Co=ワーカーズ・コレクティブ：地域に有益なものやサービスを生み出すために、一人ひとりが出資し、働き、経営する非営利市民事業